

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070401627
法人名	社会福祉法人 鷹羽会
事業所名	グループホーム花みずき
所在地	北九州市小倉北区篠崎一丁目9番6号 (電話) 093-592-3605

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	H21年 6月 3日
評価確定日	H21年 7月 6日

【情報提供票より】 (平成21年 5月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 7人, 非常勤 3人, 常勤換算 8.7人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り 造り
	2階建ての ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	59,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,300 円		

(4) 利用者の概要 (平成21年 5月 15日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	4名	要介護2	0名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.5歳	最低	79歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松井病院 岸本内科クリニック 萩崎クリニック 岩井歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は神社と隣接し、小高い閑静な住宅街に位置している。警察官舎や保育園、幼稚園などもあり、併設の軽費老人ホームやデイサービスセンターとの交流など環境に恵まれている。利用者はそれぞれの役割を持って明るく生き生きと生活している。職員の内部・外部研修も充実し、質のサービスを提供している。職員の勤務内容は希望を組み入れる制度があり、働きやすい環境作りに努めている。利用者職員はお互いに支えあい家族的な雰囲気がある。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目について管理者、全職員で検討し改善シートを作成し優先順位をつけて改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で記入し、職員会議で話し合い管理者が意見を集約している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を開催している。事業所の運営状況や今後の活動計画、外部評価の結果など報告し意見を求めている。委員からは意見やアドバイスを貰い、運営や介護の質の向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	月1回の事業所便りや、日々の生活状況や写真など送付している。また家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態を報告している。意見や苦情、要望を聴き、出された意見は適切に対応し運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域交流会を年2回開催し、施設の紹介やお茶会、事業所の納涼会など行事の案内を行っている。社会福祉士やヘルパー教育のための実習受け入れや近隣の保育園、幼稚園児とのいも掘りや運動会参加など地域との交流は活発に行われている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は地域密着型の視点が含まれ、利用者のケアに努めている。事業所独自の理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議等で理念と方針を唱和し、日々の業務の中で言葉かけ・態度において理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年2回地域交流会を開催し、施設の紹介や事業所の行事案内を行っている。ヘルパー教育のための実習生の受け入れや近隣の保育園、幼稚園の運動会や芋掘り等に参加している。また芝居、老人会の案内などを行い積極的に地域と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で記入し、職員会議で話し合い管理者が意見を集約している。外部評価は前回の改善項目について改善シートを作成し優先順位をつけて改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、事業所の現状や活動、外部評価の結果報告を行い、意見を貰っている。会議で出た意見はサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所が行う地域交流会への参加を依頼したり、グループホーム協議会の研修会への講師の依頼を行う等行政と連携を取りながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関して入居時に利用者・家族に説明している。また家族来訪時にパンフレットを渡して説明する等制度について周知を図っている。職員は行政が主催するセミナーに参加し、受講した職員は研修報告書を提出し、事業所内で伝達講習を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時には利用者の暮らしぶりや健康状態の報告をしている。また毎月発行の事業所便りには、行事案内や近況報告、職員紹介等写真を掲載し様子を知らせている。緊急時には電話で伝えている。金銭管理については収支報告書を送付し家族の署名・捺印をもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。家族来訪時には意見や不満、要望を聴くように努めている。出された意見には適切に対応し、家族の意見を運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を最小限に抑えるため職員採用時には、業務内容の十分な説明や事業所の業務体験実施を行っている。また職員の希望を聴き、働きやすい環境作りに努めている。やむを得なく異動や離職の場合は十分な引き継ぎ期間をとっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用にあたっては、性別や年齢を理由に排除しないようにしている。定年後も働く意思のある人は継続雇用をしている。また、個人の意欲を尊重し資格取得が出来るよう支援している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権教育は外部より講師を招き全職員が受講している。また市主催の講演会に参加し、受講した職員は内部研修で全職員に伝達している。テキスト・パンフレットは整備されており、研修記録もある。家族来訪時パンフレットを渡し啓発活動に取り組んでいる。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内で研修委員会を作り、合同で研修を行ったり、全職員が内部・外部研修を受講出来るよう配慮している。また資格取得も積極的に呼びかける等、職員を育てる取り組みがある。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加入している。管理者、職員は同業者との情報交換や研修を定期的に開催し、お互いの事業所を訪問する等人事交流を深め、サービスの質の向上に努めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に見学や体験入所の受け入れを行っている。また、職員は自宅訪問・病院訪問など行い事業所に馴染めるように家族と相談しながら工夫をしている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から梅干し漬けや料理の味付け、編み物、詩吟、大正琴など教えて貰う場面がある。また、職員がいたわってもらったり励まして貰う等共に支え合い、役割を果たしながら日々の生活を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や表情、行動など日々の関わりの中で意識的に思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は家族に聴いたり、職員会議で他の職員の意見を聴くなど、あらゆる角度から判断し、利用者の意向に添えるように工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成は会議で検討し、担当職員が利用者や家族の要望、他の職員の気づきやアイデアを聴き、計画作成担当者が介護計画を立てている。本人家族に説明し家族が了承した署名・捺印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは6ヶ月に1回実施している。また、本人の状態変化に合わせて随時見直しを行い、現状に即した計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した際は、医師と相談し家族とも連携を図り早期退院へ向けて取り組んでいる。職員は本人や家族の状況に応じて、通院や退院時の付き添い等柔軟な支援をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意見を大切に希望するかかりつけ医への受診を支援している。情報提供を随時行い家族と職員で相談しながら柔軟に対応し、適切な医療を受けられるように支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期や重度化した場合の方針がある。利用者の状態変化、重度化した場合は、その都度話し合いを行い合意を図り、利用者・家族、かかりつけ医、職員全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修等を行ないマニュアルを整備している。管理者は、常に誠意ある態度で接するように指導し、職員は、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように、言葉かけや対応に配慮している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのしたいことを把握して、体調に合わせて散歩や外出、買物、楽しみごとなど利用者の思いに配慮した援助を柔軟に行なっている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備、後片付けを行なっている。職員は食事介助や嚥下の見守りを行しながら、同じテーブルで利用者と同じものを楽しく食べている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるようにしており、利用者の希望により柔軟に対応している。入浴を拒否する利用者には、言葉かけ、タイミング、誘導など工夫し、無理強いせずに入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の個性や特技を把握し、裁縫、詩吟、編み物、調理等生活歴や興味を活かした役割を支援している。らっきょう漬けや梅ジュースは職員も一緒に作り共に生活体験をする中で、利用者自身ができることを見つけることがある。出来そうなことは準備を行い利用者が自発的に出来るよう援助している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状況や希望また天候等に配慮し、概ね毎日の散歩、週1回の買物、月3回程度の外出やドライブ等、外出を設定している。併設のデイサービスセンターの行事にも参加し事業所の外で活動する機会を多くしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関や居室、ベランダ等に施錠はしていない。職員はセンサーに頼らず、利用者の外出傾向を把握し、見守りや付き添いを行っている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルを作成している。消防署、地域住民の協力・参加を得て、法人との総合避難訓練を年3回、事業所の自主訓練を2ヶ月に1回行なっている。非常食、飲料水の備蓄、毛布、オムツ等の備品を準備している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量および水分摂取量の記録が全利用者分ある。栄養士による献立と、体調に合わせた食事を提供している。月に1回は「希望食づくりの日」があり、献立を利用者と職員で考え、一緒に買物に行き、利用者全員で食事やおやつを作っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔感があり、不快な音や臭いもなく、ベランダや天窓からの採光がちょうど良い。食堂からはベランダの季節の花を眺めることができ、廊下には利用者の作品や写真が飾られている。利用者が椅子やソファに座って居心地よく過ごせる空間になっている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの身の回りの小物、椅子、テレビ、ラジオや仏壇、冷蔵庫等があり、それぞれの居室に家族の写真が飾られ利用者が居心地よく過ごせる工夫をしている。		

※ は、重点項目。